

2018 年度第 3 回支部集会【中国支部】開催報告

主催：公益社団法人日本語教育学会

共催：国立大学法人岡山大学

後援：岡山県，岡山市

開催日：2018 年 10 月 20 日（土）10:00～17:10

会場：岡山大学(津島キャンパス) 文学部・法学部・経済学部講義棟 1 階

参加者：54 名（会員 29 名・一般 25 名）

中国支部の支部集会が岡山大学津島キャンパスで開催されました。今回の支部集会では、午前
に、研究発表 3 件（口頭発表 2 件，ポスター発表 1 件）と交流ひろば 2 件が行われました。研
究発表は日本語教育の実践やコースデザイン，日本語教師に求められる資質・能力について考え
させられるもので，活発な質疑が行われました。交流ひろばでは，地域と留学生をつなぐ活動や
書評を取り入れた教育実践についての話題が提供され，ブースを訪れたみなさんと積極的な交流
が行われていました。参加者のみなさんにとっても，これらの研究交流をとおして，自らの日々
の実践を見つめ直すとともに今後の教室活動を考える貴重な機会になったものと思われま



パネルディスカッション



参加者交流会



交流ひろば

午後に行われたパネルディスカッションでは、「地域に暮らす外国人の安心・安全を考える」というテーマで参加者のみなさんと一緒に考えました。総社市人権まちづくり課国際・交流推進係の河原睦弘さんと岡山大学の中東靖恵さんには，行政および地域日本語教育アドバイザーの立場から，総社市における外国人支援の取り組みと 2018 年 7 月の西日本豪雨災害から見えてきた課題についてお話しいただきました。岡山外語学院の片山浩子さんには，留学生の受入れ機関の立場から，留学生が安心・安全に暮らすための留意点および学校でどのような取り組みが行われているかを具体的に紹介していただきました。株式会社ランズの石井丈司さんには，教材作成の立場から，教材を作成するにあたって心がけていることと教材に込められた意図についてお話しいただきました。4 人のパネリストのみなさんによる発表の後，地域に暮らす外国人が安心・安全に暮らすために求められることについて，参加者のみなさんと一緒に議論を深めました。そこでは，「安心・安全な暮らし」の前提として，「顔の見える関係」を地域の中で日頃から築いておくことの重要性が再確認され，そのためにそれぞれの立場で何が出来るかを考えさせられました。

パネルディスカッション終了後には，参加者による交流会が行われました。普段はそれぞれの場所で日本語教育に携わっている参加者のみなさんが顔の見える関係になることができました。

最後になりましたが，この度の支部集会の開催に際して会場を提供していただいた岡山大学および運営に携わっていただいた関係者のみなさま，研究発表および交流ひろばを行ってくださったみなさま，パネルディスカッションをご担当いただいたパネリストのみなさま，そして参加してくださったみなさまに心よりお礼申し上げます。

（報告者：支部活動委員 永田良太・中園博美）